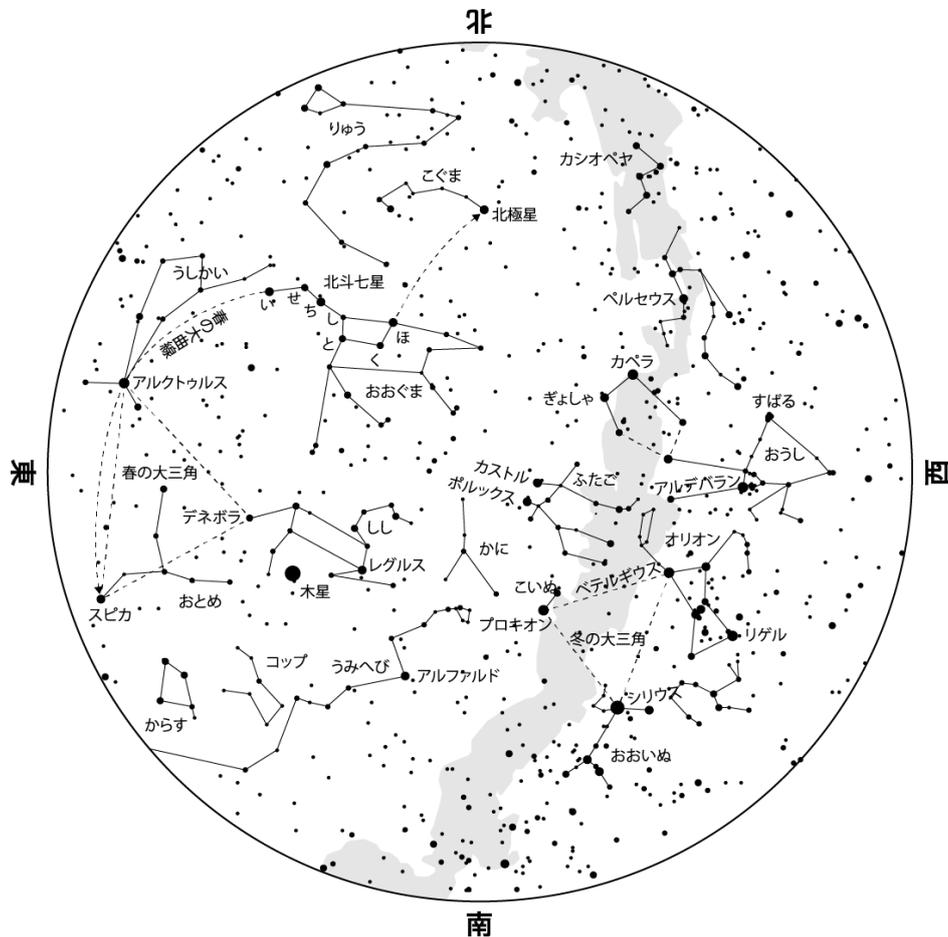


ペーパー版

本物の星空を見てね！

★ 星空案内と宇宙の話題



3/15午後9時頃、4/1午後8時頃の星空（月はかいていません）

姫路科学館は7月中旬まで建物の大規模改修工事のため休館中なので、プラネタリウムに代わって、星空案内と宇宙の話題をお届けします。

にじゅうし せっき 二十四節気

3/20 春分
4/4 清明

姫路の日没

3/15 18:09
4/1 18:22

月の見え方

- 上弦 3/16 (夜中に沈む)
- 満月 3/23 (一晩中)
- 下弦 4/1 (夜中に上る)
- 新月 4/7 (見えない)

星空案内（肉眼編）

西の空に冬の星が見えます。見える方角が変わると星や星座を探せなくなることもありますが、オリオン座や冬の冬の大三角（ベテルギウス、シリウス、プロキオン）を目印に、1等星たちを順に確かめてみましょう。

東の空には春の星座がそろいました。北東には北斗七星が目印になるおおぐま座、南東よりには、？を裏返した形が目印のしし座が高く上っています。北斗七星の器の先から順に「ほ・く・と・し・ち・せ・い」とたどると、春の星が確かめやすくなります。まず、くの星からほの星に線を引き、そのまま伸ばすと北極星が見つかります。柄杓の柄にあたる「しちせい」のカーブを伸ばすと、うしかい座のアルクトゥルスを経ておとめ座のスピカに届くカーブは「春の大曲線」です。アルクトゥルスとスピカ、そして、しし座の尾の星デネボラを結ぶと「春の大三角」になります。冬の大三角と同じく正三角形です。南の空にはあまり明るい星がありませんが、かに座の南から南東にかけて、全天一大きな星座うみへび座が長々と横たわります。レグルスの南側にポツンと見えるのがコル・ヒドレ（うみへびの心臓）、またの名は、アルファルド（孤独の星）です。

しし座の中でひときわ明るい木星が、望遠鏡で観察しやすい時期になりました。（裏面参照）

星空案内（双眼鏡・望遠鏡編）

木星は、ギリシャ神話のゼウスやローマ神話のユーピテル（Iuppiter、Juppiter）に例えられます。木星の英語名はユーピテルから変化した^{ジュピター}Jupiterです。

望遠鏡を木星に向けると、楕円形の木星のそばに小さい星が見えます（図1）。この姿を最初に見たのはガリレオです。彼ははじめは小さい星を恒星だと考えましたが、小さい星の並び方が変わっていたのに気づきました。そして、晴れた夜には欠かさず観察を続け、4つの小さな星が木星の周りをめぐっていると結論しました。4つの星は、ゼウスに愛された人物にちなんで、イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストと名付けられ、まとめて「ガリレオ衛星」とも呼ばれます。

木星は太陽系最大の惑星です。赤道半径は71492kmあり、地球（6378km）の約11倍です。体積では1321倍にもなりますが、質量は318倍しかありません。これは、岩石惑星の地球とは違って、木星が水素とヘリウムを主成分とする巨大ガス惑星だからです。また、木星は約10時間という短い周期（高速）で自転しているため、遠心力で赤道方向にふくれた楕円形に見えます。望遠鏡で見る木星の表面にも縞模様や斑点が見えますが、これらは木星の雲です（図2）。木星の様子は時に大きく変化し、太い縞模様が見えなくなることもあります。



図1 木星とガリレオ衛星
(2015年4月26日、筆者撮影)



図2 木星の縞模様
(2012年11月18日、筆者撮影)

がすみ 春霞とおぼろ月

春の夜は、晴れているのに星が見えにくいことが多いですね。西の空の冬の星たちも、真冬ほど美しく見えません。これは、冬の澄んだ星空に比べ、春の空が霞^{かすみ}んでいるためです。霞の原因は、気温が上がり、空気中の湿気が多くなることのほか、花粉、黄砂、PM2.5などの微粒子の影響もあります。いずれにせよ、空が霞むと星の光が地表に届きにくくなるため、星が見えにくいのです。これは、雨風が空気を洗い流してくれるのを待つしかありません。

市街地では、霞んだ空が照明で照らされて空が明るくなり、さらに星が見えにくくなります。人工光で星が見えにくくなることを「光害^{こうがい}」といいます。照明をなくすことは現実的ではありませんが、わざわざ空を照らす必要はありません。下方だけを照らす照明装置を使う、余分な明かりを消すなど、ちょっとしたことで暗い夜空がよみがえります。また、夜空を見上げる時に、照明を避け、少し暗闇に目を慣らすと、星が見やすくなりますよ。

光害のないところで夜空を見上げても、春霞に明るい月が昇るとお手あげです。霞^{かすみ}でぼんやり見える「おぼろ月」が空を照らし、空全体が紗^{しよ}がかかったように白くなってしまいます。光害の夜空は楽しめませんが、おぼろ月夜には積極的に月明かりを楽しむのもいいでしょう。唱歌『朧月夜』に歌われたように、春の景色を月明かりの下で愛でる・・・いいですねえ。

『朧月夜』 作詞／高野辰之
一、菜の花畠に 入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し
二、里わの火影も 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙のなくねも かねの音も
さながら霞める 朧月夜